

ぶどうづくり隊通信 2022年2月号

づくり隊8年目もよろしくお祈いします 号

ぶどうづくり隊の活動も令和4年度で8年目に入ります。昨年末にぶどうづくり隊の皆さんと、受け入れ農家さんにご協力いただいた、アンケートの結果がまとまりましたのでご報告いたします。この結果をもとに、8年目のぶどうづくり隊の皆さんが、さらに活動しやすくなるよう改善をすすめていきます。本年もよろしくお祈いいたします。

■ 昨年のぶどうの出来について

4月の気温が平年より高め～平年並みに経過し、発芽は概ね平年並みであった。開花期間中の6月上旬は平年より気温が高く経過したため、満開は平年よりやや早まった。果粒肥大は概ね平年並みであり順調であった。8月中旬の長雨に伴う低温と日照不足等の影響はあったが、糖度は平年並みであった。キャンベルアーリーの着色開始は平年よりやや遅れたが、その後の着色は順調であった。(令和3年 花巻農協ぶどう生産部会大迫支部実績検討会から抜粋)

■ 昨年の活動状況

新型コロナウイルス感染症がまん延するなか、たくさんの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

登録者数

(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	49	50	50	50	50	51	53	53	54
2020年	39	43	44	46	48	50	50	50	50

活動状況(月ごとの延べ人数)

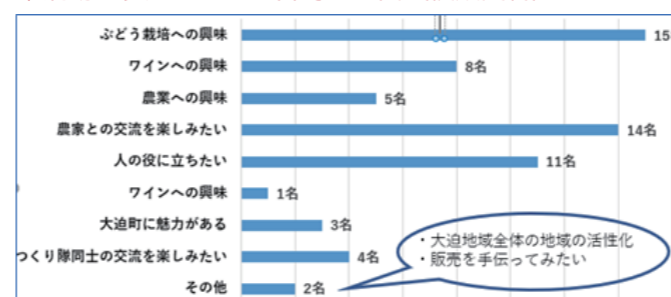
(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総数
2021年	5	21	22	22	25	40	34	17	186
2020年	7	24	40	19	43	49	29	23	234

目標人数
180名達成!

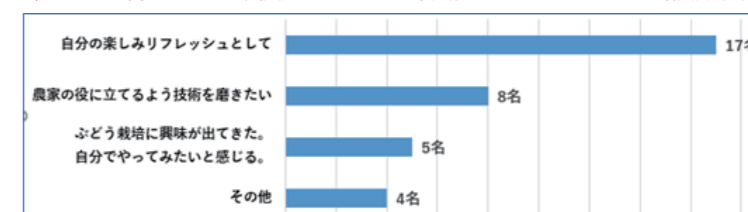
■ アンケート集計結果〔ボランティア編〕

2021年11月から12月にかけて53名に送付し、30名から回答をいただきました。(回答率56.6%)

◆活動に参加している目的や理由(複数回答)



◆づくり隊として今後どのように活動していきたいか(複数回答)



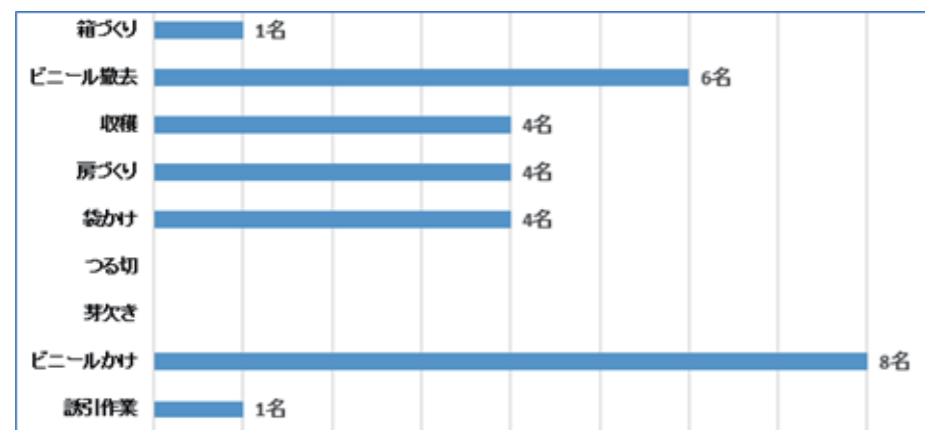
◆来年の活動に向けて(自由意見、抜粋)

- ・去年よりも手伝いができ、ぶどうについてわかってきた感じがする。マッチングカレンダーの活用方法をもう少し検討してほしい。
- ・途中からの参加だったがわきあいあいと作業できた。「コビリが楽しみ。」お土産もありがたかった。
- ・他地域・他農家から見た視点で、大迫町にはこの活動があることが羨ましく見える活動のようで、誇らしく感じた。
- ・参加した際は、作業内容の目的について細かく説明していただき、大変勉強になった。来年度は、今年度携われなかった作業や、人手が必要となる作業に参加したいと思っている。
- ・自分のペースで活動でき、受け入れてもらえる農家さんにいつも感謝している。
- ・大迫に行くたびに田んぼや山を見て気持ちがリフレッシュされる。中々体験できる経験ではないので貴重な機会をいただけてうれしい。農家さんと話すこと、ぶどうの成長を見れるのが楽しい。
- ・急に行けなくなった、急に行けるようになった等、緊急の場合、事務局が休日でもスムーズな対応ができるよう改善ができたらと思う。
- ・農家と隊員の交流が活発になれば、自然と隊員同士のつながりも活発になると思う。交流を助けるツールがづくり隊通信になれば良い。
- ・自分でもぶどう栽培をやってみてみたいと思っている。継続者がなく辞めてしまう予定の農家さんなどいたら教えてほしい。
- ・たくさんの農家の人に、生ワイン用いろいろなぶどうの作業に携わりたい。たくさんの農家の人と関わりたい。

■ アンケート集計結果〔受け入れ農家編〕

2021年11月にぶどうづくり隊受け入れ農家さん10名から回答をいただきました。(回答率100%)

◆づくり隊に手伝ってほしい作業は何ですか(1人3つまで)



◆令和3年度にぶどうづくり隊を受け入れてみての感想(自由意見、抜粋)

- ・遠くから通って手伝っていただいて本当に感謝。ボランティアさんに、もっと喜んでいただけるよう私個人でも何か面白い企画を考えようと思っている。感謝を言葉だけでなく何か形で伝えられたらいいなと思っている。
- ・づくり隊の技術があがっており、専門職になってきた。また当園のぶどうが美味しいとの話があり、来年も互いに情報交換して頑張りたい。
- ・欲しい時に常につくり隊の皆さんの人数の少なさを感じている。づくり隊の数を増やす力が必要だと思う。
- ・金曜日の午後や週末など申し込みが間に合わず直接連絡がきたり、農地に直接いらした方がいた。改善できる方法があればいいと思う

令和3年の忘年会を開催しました



農家さんの「おもてなしの会」主催による忘年会を12月4日に愛宕会館で開催しました。コロナ禍ではありましたが、多くのボランティアさん、農家さんにご参加をいただき、楽しい時間と美味しい食事を堪能しました。写真は集合写真ということでマスクを外していますが、マスクをしての懇親会でした。

剪定作業がはじまっています!

前年に成長した枝から不要な枝を切除する「剪定作業」が始まっています。最盛期は3月下旬から4月上旬になります。マッチングサイト等でボランティアを募集しますので、皆さんの参加をお待ちしています!

マッチングサイトをプチャリニューアルします

アンケートでもご意見をいただいたマッチングサイトについて、づくり隊、受け入れ農家さん双方が利用しやすくするために、プチャリニューアルを予定しています。詳細は後日改めてお知らせいたします。

後編 編集

1991年に入社以来、ずっと営業職でしたが、2014年に他部署へ異動となったことをキッカケに、近所のブドウ畑放棄地30aを借りて私のブドウ栽培がスタートしました。

我が家には昭和の時代から自宅の隣にハウスのブドウ畑が10aあったものの、ほとんど栽培には携わっていませんでした。土日も仕事のことが多く、仕事が一番!仕事中心の生活でしたので…。それまでは計画的に物事ができない状態でしたが、カレンダー通りの勤務となることから一念発起しました。

はつきりいつて無計画なブドウ栽培のスタートでした。急な人事異動だったため、苗木も発注していませんし、ブドウ栽培の知識もありません。1年目は数年間放置されて野生化してしまい、荒れ狂ったブドウの樹をかわいそうに…、と思いながら伐採し、棚に絡むツルを外し、背丈ほどの太い枯れ草を刈ったりと、ひたすら草刈りの日々でした。少しずつ計画をたてて、つくり隊の協力をいただきながら植栽し、やっこのこと一昨年から少ずつが収穫できました。今は生食用と醸造用を半分ずつ栽培しています。

ここ数年シカによる被害が著しく、せつかく植栽したブドウの苗が3年たっても棚(短梢棚)に届かない状況で、それならばと令和元年12月にワナ猟の狩猟資格をとり、見よう見まね、試行錯誤しながらシカの駆除をしています。電気柵を設置してもシカは減らないので実力行使!電気柵よりワナで現実的に数を減らさない!と思っただけです。令和3年度は30頭ほどシカを駆除しました。駆除した一部はワインとともにおいしく食べています!シカ肉のおいしさに幸せを感じている今日この頃です。コロナ禍が落ち着きましたら皆さんでぜひ「シカ肉バーベキュー」をしましょう!



プチャリニューアルします。今シーズンもよろしくお祈いいたします。

佐藤哲夫

大迫のかわいい情報はこちら



ぶどうづくり隊通信 第10号
令和4年2月発行
ぶどうづくり隊事務局(大迫総合支所内)
電話 0198(41)3122